

令和5年度 第2回岡崎市農業振興ビジョン推進委員会 会議録

1 開催日時

令和6年3月12日（火） 16:00～17:00

2 開催場所

岡崎市役所西庁舎 7階701号室

3 出席者

(1) 会長

藤井芳一

(2) 職務代理人

羽根田正志

(3) 委員

大竹博久、倉橋勲、栗田なおみ、小玉久美子、太田立身、笹竹恵子

(4) 事務局

経済振興部長：鈴木洋人

経済振興部農地整備課長：杉田昌久

経済振興部中山間政策課長：二村和孝

経済振興部農務課長：小林哲夫

経済振興部農務課農政係：木村理恵、杉浦一子

4 傍聴者

なし

5 自己紹介

新委員の栗田委員から自己紹介

6 会議次第

議題

1 有機農業実施計画について

2 その他

7 議事要旨

議題

1 有機農業実施計画について

有機農業実施計画について、事務局から説明。

【各委員の主な意見・質疑】

○大竹委員

有機農業実施計画の取組範囲は、岡崎市全体となるのか。

(事務局) 岡崎市全体である。

○大竹委員

有機農業実施計画における有機農業の定義を確認したい。有機JAS取得ではないということだが、有機農業と判断できる数値化された基準はあるか。

(事務局) 有機農業実施計画における有機農業は、「環境保全型農業直接支払交付金」に則って、化学肥料・化学合成農薬を原則5割以上低減することを基準とする。「有機農産物」として販売する場合は、有機JASを取得する必要がある。有機JASは基準が大変厳しいため、有機JAS取得とまではしないが、環境への負荷をできる限り低減した農業を目指していく。

○大竹委員

有機農業の実施により、収入が増えるまたはコストが下がるということが無いと、農家の方は有機農業を続けることが難しいと思われる。また、消費者は、農産物に虫がついていることを嫌がる方も多い。高くても有機農業の農産物を買いたいという消費者が多くなると、継続が難しい。

(事務局) あるアンケートで、飲食店の6割以上が有機農業の農産物を扱いたいという結果もあった。また、各個人での消費というよりも、学校給食センターをメイン消費として考えていくこともできるかもしれない。給食センターでは、葉物の虫の除去は難しいと思われるが、虫がいないことがわかりやすい米等の農産物から広めていくことも良い。

○藤井会長

有機農業の農産物で加工等6次産業化を行い、ストーリー性等も盛り込みながら付加価値のあるものを販売することも良い。

○笹竹委員

有機農業の農産物は、ミネラル等の栄養価も高いと思うが、それを消費者にメリットとして知らせることができないか。

(事務局) 有機農業の農産物と慣行農業の農産物の栄養価を数値化して比較できないか模索しているが、その両者の数値化した比較は全国的にも難しいことと言われており、現状難しい状態である。

○大竹委員

有機農業の農産物の大量生産は難しくても、現代1人～2人用とする小分けの農産物の販売も需要があり、販売の仕方として合うのではないかと思う。

○藤井会長

大量生産で無くても良いならば、面積が大きくない農家でも有機農業が取り組みやすい。

○藤井会長

表記で「都市部住民」と「都市住民」と両者あるため、統一されたい。「かん養」は常用漢字になるため、「涵養」の表記にした方が良い。

(事務局) 表記を修正する。

一部表記の修正含み、原案どおり委員会として承認。(全委員承認)

2 その他

オーガニックビレッジ宣言式典の開催について、事務局から説明

終了を宣言。